

# 埼玉支部報 第18号

#### 【目 次】

1	ふれあい登山報告	9
3	第2回森づくり&自然観察会	10
3	鹿沼岩山山行報告	11
4	5月月例山行報告(南月山と茶臼山)	12
5	第 11 回安全登山「ハイキングレスキュー講習」	14
6	6月四季の山春の山守門岳報告	14
6	スキー同好会設立される	15
7	7月~10月事業予定	15
8	会員・会友異動	16
	3 4 5 6 6 7	<ul> <li>第2回森づくり&amp;自然観察会</li> <li>鹿沼岩山山行報告</li> <li>5月月例山行報告(南月山と茶臼山)</li> <li>第11回安全登山「ハイキングレスキュー講習」</li> <li>6月四季の山春の山守門岳報告</li> <li>スキー同好会設立される</li> <li>7月~10月事業予定</li> </ul>

# 平成 28 年度日本山岳会埼玉支部 通常総会報告

### 埼玉支部支部長 松本敏夫

平成28年度埼玉支部通常総会は4月16 日(土)13時30分より、ソニックシティ ー601会議室において、在籍会員数137 名中37名の出席と委任状提出68名により、 埼玉支部規約第14条の規定に従い開催され ました。以下に概要を報告いたします(詳細 は通常総会資料および議事録を参照下さい)。 平成27年度事業報告では、埼玉支部が開催 する山行、事業、講演会、自然観察会などの 最新情報を迅速、かつ効率的に会員および一 般登山愛好家に発信するため、支部紹介リー フレットの改訂、ホームページのリニューア ルなどが行われました。埼玉県障害者スポー ツ協会と共催で障がい者およびその家族と共 に登山を楽しむ「ふれあい登山」、越生町教育 委員会の後援により越生町民および他支部か らも多数参加する「大高取山自然観察会」な ど、公益事業も参加者が益々増加し、委員会 活動も活発化しております。支部山行では埼 玉100山などの月例山行や「四季の山」に、

毎回、10~20名の参加者があり、多くの 会員の皆様と共に山を安全に楽しむことがで きました。安全登山では、講演会・講習会の 実施に加えて遭難事故対策規程を新規に作成 しております。平成27年度収支決算報告が 会計より、監査報告が監事からありました。



支部長 松本敏夫

また平成28年度支部役員名簿、平成28年度収支予算(801,777円)が提案され、各々原案通りに承認されました。

平成28年度事業計画では、各委員会から 年間活動計画が報告され、埼玉支部年間計画 (支部暦)が承認されました。支部規約の改 定では、入会時の手続き(書式を含む)、事務 局長および会計担当の役割の明確化、弔意、 遭難事故対策などの規約への追加が承認され ました。また、新たに制定された弔意細則、 個人情報取扱規程、委員会分掌細則などが報 告されました。

会員活動の活性化や広域化のためには、公益事業の充実および発展が重要と考えられ、 埼玉県障害者スポーツ協会、越生町などとの 緊密な協力関係を継続することが必要です。

また、若手会員の増加や次世代を担うリー

ダーを養成するため、日本山岳会事業委員会 主催の講習会への参加、登山ガイドによる講 習(指導)を山行時に実施することにより、 安全登山に関する最新の知識や技術の向上を 図る予定です。一方、8月11日には「山の 日」施行記念事業として埼玉県山岳連盟(埼 玉岳連) と共催で武甲山記念登山、講演会& コンサートを開催いたします。多くの会員の 皆様のご協力・ご支援をお願いいたします。 県内山岳スポーツ団体の一員として、公益事 業の強化・効率化および会員増を目指すため、 埼玉岳連へ加盟を決定いたしました。埼玉岳 連での活動や講演会・講習会などを有効活用 することにより、支部活動の活性化及び活動 範囲の拡大並びに登山に関するレベルアップ などの機会が増すものと期待されます。



平成 28 年度支部総会記念写真



### ◆平成 28 年度支部委員紹介

氏	名	会員番号	役職
松本	敏夫	12,047	支部長
野村	孝義	5,288	副支部長
高橋	努	14,627	副支部長兼山行委員長兼安全登山委員長
古川	史典	15,546	事務局長兼総務委員長兼広報委員長
石塚	昌孝	14,883	会計
大久保	录 春美	7,249	社会貢献委員長
高嶋	徳絋	9,626	自然保護委員長
山崎	保夫	14,954	山行副委員長
宮川	美知子	13,795	安全登山副委員長
龍ク	人仁人	12,446	支部委員
稲越	洋一	14,647	広報委員会ホームページ担当
多田	稔	13,959	支部委員
中村	直樹	12,654	監事
朝日	守	12,160	監事

# ◆規約・規程・細則・様式の改定

以下の規約等を、平成 28 年度公益社団法人日本山岳会埼玉支部総会で承認を得、改定致しました。これらの規約類は、公益社団法人日本山岳会埼玉支部ホームページに掲載しております。

# http://www.jac.or.jp/saitamasibu/index.html

- 1.公益社団法人日本山岳会埼玉支部規約
- 2.公益社団法人日本山岳会埼玉支部個人情報取扱規程
- 3.公益社団法人日本山岳会埼玉支部遭難事故対策規程
- 4.日本山岳会埼玉支部遭難事故対策規程に関する細則
- 5.公益社団法人日本山岳会埼玉支部委員会職務分掌細則
- 6.公益社団法人日本山岳会埼玉支部弔意細則
- 7.公益社団法人日本山岳会埼玉支部 入会申込書(様式 A)
- 8.公益社団法人日本山岳会埼玉支部 会友入会申込書(様式 B)
- 9.公益社団法人 日本山岳会埼玉支部退会届 (様式 C)

## ◆日本山岳会埼玉支部 創立 7 周年記念海外登山《台湾・雪山と玉山を登る 7 日間》 埼玉支部は平成 28 年 4 月に創立 7 周年を迎えます。

創立3周年ではブータン・チョモラリトレッキング遠征を行い、創立5周年ではヒマラヤ・チュルー最東峰登頂とトレッキング遠征を実施しました。それぞれ印象深い登山ツアーになり、埼玉支部の活動促進に大いに寄与したものと言えます。年齢に負けないチャレンジ精神を発揮し、未知の夢を追い求めることは日本山岳会員の精神であり、また支部活動を活性化させる要諦でもあります。

創立7周年記念海外登山は、台湾の2大雄峰である雪山(3886m)と玉山(3952m)の2峰を登る登山ツアーを企画いたしました。また、雪山登頂と阿里山観光コースも用意しました。台湾は幾多の3000m峰を抱え、登山ルートや宿泊ガイド体制などが整備されている山岳国であります。富士山の高度を超える雄大な台湾のピークを踏み、また、日本人に対して極めて友好的で、食事も馴染みやすく美味しいもので楽しい登山隊になるはずです。安全には十分に配慮し実施をいたします。(登山隊長古川史典、マネージャー高橋努 催行会社・アルパインツアーサービス社)

#### 【登山日程表】

月日	Aコース(雪山と玉山を登る)	交通	Bコース(雪山登頂と観光)	交通
10月2日	成田空港—台北—武陵 2140m	航空機	同左	
(日)	(雪山登山口) ロッジ泊	専用車		
10月3日	武陵—雪山東峰 3201m-	徒歩	同左	
(月)	三六九山荘 3200m 山小屋泊	6 時間		
10月4日	三六九山荘—雪山山頂 3886m-	徒歩	同左	
(火)	武陵—礁渓温泉	8 時間		
	ホテル泊	専用車		
10月5日	礁渓温泉一台北—阿里山 2216m	専用車	同左	専用車
(水)	ホテル泊		ホテル泊	
10月6日	阿里山—タタカ鞍部 2610m—拝雲	専用車	烏山頭ダム観光	専用車
(木)	山荘 3402m 山小屋泊	徒歩	ホテル泊	
		5 時間		
10月7日	拝雲山荘―玉山登頂 3952m―タタ	徒歩 7.5	阿里山周辺ハイキング―台北	専用車
(金)	カ鞍部—阿里山(Bコースと合流)	時間	(Aコースと合流)	
	一台北 ホテル泊	専用車	ホテル泊	
10月8日	台北市内観光	専用車	同左	
(土)	台北—成田空港	航空機		



玉山山頂を望む

### ◆国民の祝日「山の日」施行記念事業について

平成28年8月11日は国民の祝日「山の日」《山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝す日》 が初めて施行される記念日です。日本山岳会のチラシ「『山の日』を知ろう」には、「国民のみん ながふるさとの山を想い、《山と向き合ういちにち》です。かけがえのないわが国の自然を守り、 次の世代に引き継ぐことを銘記する日です。」と記されております。

日本山岳会埼玉支部では、以下の記念事業を実施予定(一部実施済)です。支部の公益事業と して、平成28年度ふれあい登山(4/24日)、森づくり&自然観察会(5/22、10/9)、大高取山自 然観察会(11/27)、白根御池小屋管理人による安全登山講演会「北岳周辺での遭難事故の現況」 (12/7)、シンポジューム「埼玉の自然を知ろう」(H29. 1/19)、埼玉県山岳救助隊による安全登 山講話(H29. 1/21)を実施いたします。一方、埼玉県山岳連盟と共催で、武甲山記念登山・講 演会&コンサート(8/11)、秩父夏休み親子キャンプ(8/13~14)を開催予定です。

ふるさとの自然と向き合いながら、「山の日」を有意義な祝日とするために、各種記念事業に会 員の皆様の積極的な参加を期待致します。よろしくお願いたします。 (松本敏夫 記)

# 国民の祝日「山の日」施行記念 講演会&コンサート・武甲山登山

『山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日』

主催:埼玉県山岳連盟 共催:秩父山岳連盟・日本山岳会埼玉支部 後援:埼玉県·秩父市·横瀬町

### I. 講演会&コンサート

日時:平成28年8月11日(木)(祝日)

13時(受付開始) 13:30~17:00

会場:秩父地場産センター4階大ホール TEL:0494-25-0088

〒368-0046 埼玉県秩父市宮側町1-7 <a href="http://www.jiba.or.jp/index.htm">http://www.jiba.or.jp/index.htm</a>

- 1. 『百名山を楽しく登る』 岩崎元郎氏(無名山塾)
- 2. 『ヴァイオリンコンサート』 佐原敦子さん
- 3. 『秩父の楽しみー山・地質・暮らしー』 吉田健一氏(秩父ジオパーク推進員)
- 4.. 『トレイルランを楽しもう!』 奥宮俊祐氏(トレイルランナー)







#### Ⅱ. 武甲山記念登山

日時:平成28年8月11日(木)(祝日)

- 1. 登山:武甲山生川登山口(一の鳥居)6:30集合、登山開始7:00~12:00終了 コース: 生川登山口~御岳神社~武甲山山頂~生川登山口(往復)
- 2. トレランセミナー(奥宮氏):武甲山で登山と重ならないコースと時間で実施 募集人数:30名、参加費:500円(保険代)

お申し込み方法(締切日:7月31日)

募集人数:300名(先着順)

参加費 :無料 申込方法:松本敏夫

①TEL :090-5338-0118

②Email :toshio-matsumoto@jcom.home.ne.jp

下記を提示のうえ、①または②の方法で申し込みください

講演会参加者:氏名、電話番号

登山参加者 :氏名、性別、電話番号、住所、緊急連絡先



### ◆2 月四季の山冬の山玉原高原、日光白根山 青木 正

2016年四季の山「冬山」は、2月13日(土)、 14日(日)の日程で玉原高原と日光白根山を訪れた。今回の目玉は、支部員でもあるプロガイドの平川陽一郎氏同行の山行ということであろう。

初日は、玉原高原スキー場の駐車場に集合した。 天候は晴れ間も見え、暖かい。まず、ゲレンデ脇 の雪上で平川氏からスノーシューの装着や歩き方 等の基本について手解きを受け、ゲレンデ外の林 の中に向かって出発。トレースのないところを歩 くのは、体力は要るものの気持ちよく、まさしく 高村光太郎の「道程」の世界だ。ブナ林を散策し つつ途中で昼食をとり、駐車場方面へ戻る行程だ が、私のような素人にはどこを歩いているのか自 信がなくなってしまう始末。折に触れ平川氏から 適切な指導、アドバイス等があり、全員無事に駐 車場へ戻った。スノーシューが初めての方にとっ ても大変有意義なハイキングであったと思う。し かし、雪上ハイクとはいえ本当に暖かく、軽装で も心地よい汗をかいた。



玉原高原

その後、宿にて平川氏を講師として座学。リスクに対する考え方の基本を全員でディスカッションする方式は、聴講とは異なり各人に多くの気づきがあったと思われ、これまた有意義であった。その後、夕食、二次会の流れで夜が更けていった。

2日目は、朝から雨。気温も高い。雨は午前中 との予報に、予定を1時間遅らせ9時に宿を出発。 日光白根山ロープウェイにて山頂駅へ。天候の回 復が思わしくない中、可能な限り白根山頂へ近づ くべくスノーシューを装着して出発。途中、雪山訓練としてアイゼンに換装。しかし季節外れの陽気のため、GW 時のズボズボの雪山のようで時折大きく踏み抜き体力を消耗。スノーシューの機能を身に以て感じることができた。今回は、下りロープウェイの時間の制約から、森林限界到達前に引き返すことになった。残念だが、いつかリベンジをと思っている。



日光白根山登山口

ロープウェイで麓に下りた後、平川氏からピッケルの基本についてあらためてミニ講習があり、 聴いて実習して理解を深め、今回の山行の行程は 全員無事に終了した。

我々をリードしつつ、冬山の装備や歩き方等を 適時丁寧にアドバイスしていただいた平川氏にと ても感謝している。特に、ギアに対する造詣の深 さに感銘し、自分も今まで以上に意識しようと思 っている。

天候には今ひとつ恵まれなかったが、講師と同 行の方に恵まれ、楽しく意義深い山行となった。 この場を借りて、お礼を申しあげたい。

日帰り温泉で汗を流してから分乗して帰路についたが、帰りの車中のラジオで春一番が吹いたと聴いた。玉原高原や白根山も暖かかったが、帰着した大宮駅は生暖かい空気に包まれていた。

### ◆3 月大高山~天覚山 報告

若林弘美

平成 27 年 3 月 5 日(土) 曇

埼玉支部入会後、初山行である。初めてお会いする方々、またペースに付いて行けるか、少々不安な気持ちを持ちつつ吾野の駅に降りた。ヒンヤ

リする! 空気が冷たかった。まだ奥武蔵の方は冬なのかなぁ...と思いつつ改札を出ると、知ったお顔が! スケッチクラブでご一緒している方だ。ホッとする。

古川さんに挨拶をし、既にいらしている方々と談 笑し心も解れる。

9時、参加者 17名が揃ったところでリーダーの 方々の挨拶、班分け、軽くストレッチをし歩き出 す。

暗く足元の見えないトンネルをくぐり登山口へ。 その手前にある「吾野湧水」という看板に惹かれ つつ登山道へ入った。

いきなりの急登で一歩一歩ゆっくり足を出す。どんな山でも登り始めはしんどい。30分程歩いたところで衣類の調整。

薄暗い杉、桧木の樹林帯の中を黙々と登る。 なんだか修験者のようだ。

漸く急坂も落ち着くが展望もなく、お花もない。 でも一つ、色々な手作り標識が何とも面白い。ぜ ひチェックしてみてほしい。

#### 一旦舗道へ出て小休憩。

「大高山」へは いよいよこれからだ。尾根道へ入って行く。道には倒木やら枝葉が多く落ちており、その上を踏み締めつつ、くぐったり、またいだり。登って行く、登って行く。体も温まり楽しくなってきた。

痩せた岩場を通り、そして「木の根を登る」という標識を見上げると急登。そこを登り切ると「大 高山」へ辿り着いた。



大高山

集合写真撮影後「天覚山」へ向かう。

いやいや、ここからが正に低山アルプス! 大きなアッブダウンを繰り返す。これが下りで良かった、いや下りもキツいが、逆コースでなくて良かったと思うほどの急峻な道。

相変わらず展望のない道だが、見られる樹木が変わってきていた。そして天覚山の手前で突如ツバキのお花がお出迎えしてくれた。ふと、振り返ると大高山も見える。やはり歩いていてご褒美がなければね!と嬉しくなる。そしていよいよ「天 覚山」に辿り着いた。

大高山も少しの展望はあったが、こちらはもう少 し広範囲が見渡せた。

曇のためか、はたまた春霞なのか、幾重もの山 並みが墨絵のごとく広がっている。美しい、ただ 美しい。ずっと奥までうっすら稜線が見えている。 ここにこの日一番のご褒美か待っていたのだ。

集合写真撮影後もその景色を撮っていたら、古川 CLより方角の説明を受け、また嬉しくなる。

山頂直下の両峰神社跡で昼食を取り、沢筋ルート より下山。

そこで見つけたスミレ。まだ冬かと思っていたが、 ここももうそこまで春が来ているのだなと感じら れた。

14 時 10 分 東吾野駅着、解散。

初山行で不安一杯だったが、森田コースリーダーの元、丁度良いペースで歩け、また班分けのおかげで初めての方々ともお話出来き、楽しい山行となり感謝しております。

道を楽しむルートですね。埼玉のお山は魅力的で した。皆様お世話になりましてありがとうござい ました。

# ◆第32回全国支部懇談会に参加して

#### 自然保護委員会委員長 髙嶋徳絃

平成28年4月9~10日越後支部主催で岩室温泉に 250の岳友が集まって開催された。

埼玉支部からは私も含め13名が参加した。

当日最寄り駅の燕三条は、交通の要所でそこからホテルのバスでの送迎が甚く気に入った。

越後支部の温かいもてなし「越乃寒梅」が思い出されてならない。

翌10日も好天気で、弥彦神社参拝後カタクリやユキワリソウが山頂直下で迎えてくれた。越後平野の絶景など忘れ難き新潟・弥彦山の旅であった。



# ◆総会記念山行「秩父釜ノ沢五峰登山」 (小さな秩父のアルプス)

朝日守

平成 28 年 4 月 17 日曇り・のち晴れ。

7 時大宮駅西ロシーノからマイクロバスでスタート、途中東武東上線若葉駅にて参加者 19 名全員集合、小鹿野町 32 番札所近くの登山口の長若山荘へ向かう。

支部長から総会山行開催の辞、準備体操、集合 写真撮影、9時45分に先ずは五峰をめざす。釜ノ 沢に入り二輪草と稀に見る大きく立派な数株のマ ムシ草に出会う。古い木橋を渡り傾斜は徐々にき つくなり岩場に入ると、アカヤシオを始め数種類 のツツジや満開の山桜が現れ、さらに樹木の間か ら望む春霞の遠く景色は桜色に染まっている。ま もなく五峰最初の一ノ峰に辿り着く。稜線は風化 した砂岩の岩肌が左側に傾斜していて右は絶壁。 二ノ峰はいかにも峰らしき容をなしている。石彫 りの標識は一見すると三ノ峰とも読める。漢字の 二の間がもともと開き過ぎていて、誰かがその間 に一を書き込んだらしい。下りは鎖を使って、先 達役の森田さんが途中から鎖を離さず右側に下る 着地点を確認の後、古川リーダーの掛け声で慎重 に一人ずつ下る。三ノ峰は二ノ峰と容が似ていて 同じく鎖を使う。四ノ峰は直に下る径跡が岩場に

見当たらず、登ってきた径を少し戻り、左巻きの 小径を使い五ノ峰に向かう。五ノ峰は標識だけが 五番目の存在を示している。この辺りからは右側 の急斜面に植林がみられ、よくぞここまでと感心 する。



暫くして標高 566m 先の布沢峠近くの大きな鉄 塔に至る、左に見える午後通過の竜神山と兎岩の ある尾根側の鉄塔とは送電線が繋がっているが、 右側には何故か送電線が伸びていない、地形図に は載っているのだが。この辺りからは工事の準備 なのか樹木の伐採が行われている。見晴の良い広 場で30分の昼食をとり、賑々しく集合写真を撮り 終え文殊峠へと進む。薄暗い樹林帯の右側奥にモ ミの巨木が際立って、守護神の如く聳えている。 先に進み竜神山・中の沢⇔金精神社・文殊峠方面 の分岐標識を見て、金精神社方面へ向かう。やが て金精神社に至り参拝を済ませる。ここが文殊峠 で、長若山荘柴崎善治氏他一名により 1986 年に設 置された天体観測所がある。ちなみに、釜ノ沢五 峰登山径も長若山荘により整備管理されている。 ここから折り返し、前述の分岐に戻り、下山コー スの竜神山・中の沢方向に進む。次に竜神山・中 の沢の分岐に至るが、この辺りからの北西に開け た展望は今日一番の絶景、左から両神山・四阿屋 山・二子山を望む。その先の 538mの竜神山では 熊谷さんが4等三角点を確認し、三角点とご満悦 を一緒にカメラに収める。傍にはハルリンドウが 2 輪咲いていた。次の急斜面のトラバースではロ ープで安全確保し賽の洞窟へと下る。数ヶ所の洞 窟の内部には、遥か昔に水流で削られたと思われ る幾何学的な凸凹の模様に興味は尽きない。覗き

込みながら下ると、やがて兎の背に似た兎岩が現れる。滑り落ちない様に径の左右に鉄柱が埋め込まれ、鉄柱には添い鎖が付けられている。最終の下りに入り14時林道に下山する。



4 時間足らずの山歩きで、これほどまでに地形の変化に富んだコースは珍しく、秩父のアルプスとも呼ばれている。予定の32番札所法性寺とお船観音はまたの機会とし、武甲の湯に寄り帰路に着く。

コースタイム 7:00 大宮シーノ→8:00 若葉駅前 →高速花園経由→9:45 長若山荘出発→10:20 一 峰→11:15 五峰→11:25 お舟観音からの尾根合流 点→11:45 昼食 530m位地点→モミの木 13:30→ 13:00 金精神社・天文台→13:40 兎岩→14:00 林道→14:30 長若山荘→15:00 武甲の湯→17:15 若葉駅→18:30 大宮シーノ解散

# ◆今年も楽しく「ふれあい登山」・ 大高取山 (376m) 社会貢献委員会 大久保春美



まず、登山終了後の集合写真をご覧ください。 山岳会の仲間の顔を良く知っている人には、この 集合写真の意味することが理解できると思います。 6回目ともなると、会員の多くが障がい者との

6回目ともなると、会員の多くが厚かい者との 登山のノウハウが身に付き、必要な安全確保や配 慮、自然なかかわりで一日を過ごし達成感と幸福 感に満たされた顔をしていると思いませんか?

リーダーの私の出番は、年々少なくなっていて、 今年は脳血管障害片麻痺者の参加者に下山を促し たことだけでしょうか。この方は、施設単位での 申し込みで、事前に歩行能力等を電話で確認をし、 「日常的に日和田山あたりに登っている」と回答 があり参加を受け入れたものの、当日本人の歩容 をみると「これは難しいだろう」と思いました。 しかし、本人も施設職員も大丈夫の一点張りで、 とりあえずバスで出発しました。開始式を終えい よいよ登山を開始しましたが、すぐに斜面の歩行 が難しいことがわかり、ようやく本人も施設職員 も納得して、この施設グループ全員はバス停まで 2 人の山岳会員に送られて下山することになりま した。昨年も施設からの参加グループの遅刻や全 員が弁当を忘れたという「事件」があり、毎年、 施設からの申込には気を付けているのですが、ど うも家族単位の参加の方が、事前に送る「参加の しおり」を熟読し、登山の心構えができているよ うな気がします。

さて、4月24日(日)、埼玉県障害者スポーツ協会との共催事業であるふれあい登山は、埼玉支部にとっては馴染みのある越生町の大高取山(376m)に登りました。前夜の雨でキャンセルがあったものの、障がい者12名、付添11名、山岳会員28名、スポーツ協会職員や障がい者スポーツ指導員5名の計56名で、最短で山頂に着くルートとして選んだのは、越生駅からバスで15分の越生自然休養村センターから登るコースです。センターで開始式や準備運動を行い班単位でスタート。歩き始めはやや急登がありますが尾根上の緩やかな道を進み1時間もかからず山頂に到着しました。参加者にとっては霧に包まれた山も感動のひとつになったようで、「うわ・・幻想的!」と

いう声があちこちから聞こえてきました。弁当を 広げるころになると霧が晴れ山頂からの景色を楽 しんだ後に下山開始。滑り易いところがあり 2 か 所でロープを張りました、桂木観音やゆず畑を通 り、空虚蔵尊を経由し駅前の法恩寺まで約 3 時間 の道のりを、山村の新緑や花々を楽しみながら下 山しました。

終了後のアンケートでは、障がい者や付添い、 山岳会員を含めて全員が「楽しかった」「来年も参加しようと思う」と回答。

「今日一日一番印象に残ったこと」についての問いでは、知的障がいのある参加者からは、「咲花 唉」(十分意味が解りますよね!漢字の偏と旁が左右逆に書いてありましたが花がたくさん咲いていたことを伝えたかったのでしょうね)、「じんじゃのとら」「地形のアドバイス」「いろんなけしきが見えてよかったです」とありました。

付添の家族からは「リーダーさんの心づかいと 優しさに感動です!!山岳会の皆様の安全第一の 気配りのおかげで安心して楽しく過ごすことがで きました」「山頂について嬉しかったこと、景色、 山岳会の人たちとのおしゃべり」「山岳会の方がい ろいろなことを教えてくれたり、お話も楽しくし てくださって、より楽しい山登りだった」、その他 にも景色や花など感動したことの感想を沢山いた だきました。

また、山岳会員からは、「一緒に歩き通し最後に素敵な笑顔で楽しかったと話してくれたこと」「障がい者の方が"ハー着いたあ~"と言った瞬間」「こどもの反応」「人とのふれあい」「参加者が和気あいあい」「皆さんの笑顔」「山道で楽しく歩けたこと、役に立ったと思えること」「皆が一つになって一所懸命だったこと」「途中で 4 人の方が帰ったけれど"ここまでこれて良かった"と言われて嬉しかったです」等々。中には「花がきれいだった」ことが一番の印象と書いた方もいましたが、ほとんどの会員が障がい者とのふれあいと山の楽しさを伝える喜びを感じたのだと思います。

ふれあい登山の意義は、障がい者や付添の方々 から元気を頂きながら山岳会員の心の豊かさにつ ながる機会になっていることでしょうか。 恒例の登山後の席(宴会ですが)は盛り上がった こと!!また来年、宜しくお願い致します。

# ◆第2回高尾グリーン センター 森づくり体験研修会事業報告 自然保護委員会委員長 高嶋徳絃

年月日 平成28年4月29日(金)30日(土) 場所 高尾グリーンセンター(東京都八王子市南 浅川町) -管理運営・高尾グリーン倶楽部 参加者 高嶋徳紘 龍久仁人 藤野欣也 多田稔 斎 藤友護 柴田研二 小池鉄男 村越百合子 朝日守 計9名 倶楽部会員の加藤信夫氏が支援参加 高尾グリーン倶楽部 代表・龍久仁人 国有林、2 つの部分林、3つの民有林と協定を結び、森林整 備と教育を実施する森林ボランティア団体で、請 け負っている対象森林面積は50ヘクタール。セ ンターは宿泊施設を備え、社会人から子供まで、 楽しい山仕事が体験できる支援活動を行っている。 間伐材を使った子供の木工体験、高校生の間伐実 習も行っており、幅広く林業体験を支援している。



高尾グリーンセンター初日作業終了後

○28日午前-午後からの間伐に備えた装備 確認と3食の自炊準備を行う。

午後一ヘルメット・軍手着装、大小の鋸を腰に結び着け、センターに至る道を数分戻ったところの、今回間伐する森林は戦後開拓農家として入植した人達の植林地で、間伐及び間伐材をセンターに一任している。道路から左斜面の間伐する檜には、白いテープが巻かれている。山岳会メンバーと倶楽部会員の加藤氏を合わせた10名を、小池班と加藤班の2班に分け、切り倒す側に鋸で楔状(∠)

の受け口を切り込む1名と、倒す側にV字形に口 ープを引く左右2名ずつを確認、総監督は龍代表 である。小池氏も倶楽部会員。間伐作業は、安全 第一に間伐材を切り倒す為の2本のロープ架けか ら始まる。数メータ上の適当な小枝にロープを引 っ掛けるため、先をY字形に細工した長い枝木を 使うか、又はロープの先部を巻き丸めて小枝に掛 かる様に放り上げる、これは難しいワザだ。次に ロープを調整し倒す場所を確認する。下には道路 と電線があり、その方向は避け、周囲の木々に絡 まない様に上空から地面まで開いている方向を確 認する。そしてV字形に左右二人ずつロープを引 いて行き、所定の配置に着きロープと足場をしっ かり確保する。倒す側に、直径の3分の1位に楔 状の受け口を作る、鋸を入れる。頃合いを見て反 対側に追口と云われる水平に鋸を入れ始めると、 何時倒れ始めてもおかしくない、左右の4人の引 手が班長の指示の下、方向を確かめながら力いっ ぱい引き、そして倒す。実際には木の枝葉のバラ ンスは均等では無く、傾斜があり均等に引く事も 難しく、切り口が捻じれる事も有り油断出来ない。 今回もこの様な事態が1回あったが、総監督の的 確な判断のもと全員が力を合わせ、決めた地面に 無事間伐材を倒した。しかるに、スムーズに一回 で定めた方角に収まると、おのずと大きな歓声が あがる。間伐した檜の小枝を切り落とし、間伐材 を適当な長さに切り落し斜面に水平に並べ置く。 間伐により暗かった森がスッキリ明るく変り、将 来を託す檜達にエールを贈りたい。何本か持ち帰 り丸鋸でコースターを作ると檜の香しさが広がる。 その後、明日の径づくりの下見をしてからセンタ ーに戻り、薪割り、入浴、お待ちかねバーベキュ 一準備とする。柴田さん自捕りの絶品鴨鍋、加藤 プロシェフのおかげで春の夜の豪華なパーティー となりました。

○29日6時半起床、7時30分朝食 9時今日の径づくり作業にあわせ、ヘルメットと 軍手を着装し鉈と鋸を腰に結び、細長で分厚い鍬 を手に持ち、加藤班と小池班の班別でセンターの 裏側に入る。この辺りを多様な植物の観察ゾーン として育てており、その観察ルートの径づくりを行う事にある。イノシシの餌食の土穴があちらこちらに点在している。今回は約50m位の径づくりで、アオキや小枝、その他の草木を鉈・鋸・鍬で根こそぎ取り除き、鍬で斜面を切り込み、径の形に整地する。鍬鋸鉈は当に山径開削の三種の神器、作業が事のほか捗る。開削しないと分からなかった、周囲のエビネ・シュンラン・チゴユリなどなどお宝を発見する度に歓声が響き渡る。総監督が驚くほど速く作業が進んだと感心しきり。昨年作った径との接続も確かめ、登ってきたセンターの裏に繋がる、急斜面の作業径も新たに作り作業を終えた。

センターに戻り、早朝の手作りおにぎりと味噌汁 で昼食。午後からは、総延長 1799 キロ 160 コー スの関東ふれあいの道の起点が、近くの八王子市 梅の木平(高尾 IC 近く)を起点としていて、高尾グ リーンセンターへの道路がふれあいの道である。 そのふれあいの道で自然観察会を兼ね、三沢峠に 向かう。途中ヒキガエルが孵化し塊で泳ぎ回る水 溜りをしばし皆で覗き込み薀蓄に聴き入る。ホテ イソウ・キンラン草・ナガバノスミレサイシン・ 葉っぱから油が採れる木などを観察しつつ三沢峠 に上がると、稜線の登山道は賑わっている。下り は右側の昨年国有林の木材切り出しの為に作られ た、作業道路を使いふれあいの道に出て、センタ ーに戻る。道具の手入れ、施設の掃除をして3時 に終了式。龍代表はじめ身近にご指導頂いた加 藤・小池氏に感謝の意を表し解散とする。

#### ◆鹿沼岩山山行報告

平川陽一郎

5月21日(土曜日) 鹿沼岩山にて安全な岩稜歩きの為の岩場練習を行う。

当日の参加者は12人、講師は平川が担当する。 今回練習場所として選んだ鹿沼岩山は、古くか らクライミングゲレンデとして知られていた山で ある。

栃木県新鹿沼駅から歩いて 30 分程の場所にあ り、地の利が良く手頃なゲレンデであったが、凝 灰岩の岩質はボルトの効きが甘くリードが出来ない為に現代の主流から外れ忘れられたゲレンデとなっていた。

朝8時に車と電車にて東武線新鹿沼駅に集合し、 岩山登山口にある日吉神社に向かう。 駐車場 所にてクライミングの身支度を行い準備体操の後 に出発をする。

15 分ほど山道を歩くとそれまでと一変し、いきなり岩場のルートに出る。右にA峰正面にB峰左にC峰が見え心理的なプレッシャーがかかる場所だ。いきなり出てきたこの岩場でまず参加者の方の岩場習熟度を見させていただく。



ムーズに登られている方もお出でになるが、何人 かの方はどの様に登っていいかが判らなくなった 方も見受けられた。

B峰の基部で休憩の後、B峰の傾斜の強い南面と緩やかな北面でトップロープをセットして交互に確保しながらクライミングとクライムダウンの練習を行う。

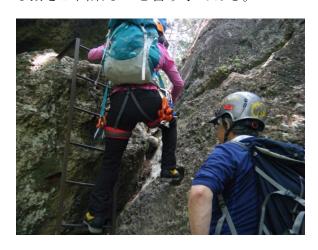
ホールドは大きくフリクションも良いのだが、 強い傾斜の為に必要以上に力が入りフットワー クでは無く力に頼るクライミングになっている。

12 時までクライミング練習の後、岩山稜線の縦走を行う。

縦走路は、ハシゴあり鎖ありチムニーありフェイスの登下降ありと岩場が好きな方にとってはアスレチックの様にバラエティに富んだ楽しいルートである。

参加の皆さんに共通する事は、加齢と共にバランスと筋力、視力が落ち、加えて大なり小な

り膝痛の為に若かりし頃の様に岩場でのスムーズな動きが出来ないと言う事である。



加齢は加齢に合わせた岩場のこなし方があるので、歩きながら岩場でのバランスの取り方のコッをレクチャーする。

小さいながらも起伏のある縦走路を楽しむ事 2 時間で山頂に到達、記念写真を撮り往路を引 き返す。

今回はあまりの暑さの為にエスケープルートから下る事にする。が、しかし、これが悪かった。踏み跡では無く滑った跡の様な急斜面を下り、いや、正しくは滑り落ち、這々の体でゴルフ場の道に這い出て駐車場に戻り解散とする。

鹿沼岩山は小粒でもピリリと辛い良い山です。

## ◆平成28年度5月 月例山行報告 (南月山と茶臼山)

渡邉嘉也・古川史典

1. 日程 5月22日(日) 天気晴れ

2、メンバー 12名

茶臼岳登頂隊: 古川隊長、石塚、稲越、清登、

森田、田中、竹内、 橋本、

牛が首隊:高橋隊長、冨樫、宮川、渡邉

7時50分、朝食を早々に済ませ、板室温泉(幸 乃湯)を車3台に分乗し出発。

8時10分、沼原駐車場で稲越さんと合流。 昨日帰った東さんと岩登り講師平川さんを除いた12名の隊である。 宮川さんのリードで、昨日の岩登りで固くなった筋肉ほぐしとトレッキング前の準備体操をする。

8時55分、五月の風が吹く青空のもと茶臼岳へ向けて石塚さんを先頭に出発、記録写真は稲越さんが受持つ。 直ぐに南月山との分岐に出る。 9時15分、服装調整と水分補給をする。 足元には私達のルートを最後まで飾ってくれたスミレがいる。 白笹山までの登りは鮮やかなピンクの三つ葉ツツジ、シロヤシオ、アズマシャクナゲ、若さ溢れる葉が眩しいヤブレガサやマイツルソウ、僅かな場所を確保したショウジョウバカマ、エンレイソウ、ユキザサが迎えてくれた。

10時40分、白笹山(1719m)到着。 ここで高橋、 冨樫、宮川さんの3名と2隊に分かれる。 山頂 標識は茶臼稜線の直ぐ手前にあった。 気持ちの 良い笹原の稜線を過ぎるとミネザクラやシャクナ ゲの路が続く。 11時35分、南月山(1776m)着、 記念写真を撮影、淡いピンクのミネザクラと赤茶 けた茶臼岳の山の姿が絵になる。



南月山山頂にて

北には中央分水嶺の大倉山(1851m)、三倉山(1827m)、流石山(1812m)がしっかりと県境を守っている。 昼食を「牛が首」でとることにし、休まず北へ進む。 オオカメノキ(葉が亀の甲羅に似ている)の白い花が青空に映える。(この木の葉を虫が好むので別名ムシカリとも呼ばれ、秋に赤い果実を稔らせる)

突然、ヘリが近づき、ロープウェイ終点付近を ホバリング(空中停止)始めたが、足を止めず、 日の出平(1,786m)を越え、12時25分、「牛が 首」に到着。 高橋隊と交信すると「南月山で昼食する」とのこと。 調子の出ない渡邉は高橋隊をここで待ち、古川隊8名は昼食を早々にとり、12時45分、予定より早く茶臼岳山頂へ向かう。

【高橋隊】13 時 45 分、高橋隊と渡邉が合流。 高橋隊は先に下ることを古川隊と確認し、13 時 55 分、下山開始、姥が平へは三斗小屋ルートと同じ 道を辿る、14 時 17 分、ベンチのある姥が平到着、 雄大な茶臼岳が聳え、朝日への稜線が続く、14 時 35 分、「ヒョウタン池 200m」の看板を見、池を往 復する。 三斗小屋との分岐辺りの登り返しを過 ぎるとダケカンバの林の快適な路、やがて日の出 平への指標、案内地図には沼の原へ 30 分とあった。 湿原のニッコウキスゲは未だ開花してないことも あり、行かず、分岐を駐車場に向かう。

2つ目の貯水タンク(駐車場トイレ用)を過ぎ、 16時10分、駐車場着。 振返ると今日歩いた白 笹山、南月山、茶臼岳が青い空に美しい姿を見せ ていた。 16時35分、下山した茶臼岳登頂隊と 合流し「板室温泉健康のゆグリーングリーン」に 浸かり今回の山行は終わった。 因みに、この湯 はシニア200円、一般500円と負担の少ない価格 でありました。

【古川隊】12時50分渡邊氏は、高橋隊と合流するため牛が首に残り8名で出発。茶臼岳を時計と反対周りで、ほぼ水平な登山道を那須ロープウェー山頂駅からの登山路に向かう。



那須 茶臼岳山頂にて

13 時 20 分那須ロープウェー山頂駅からの登山路に合流。ここからは、急に増えた登山者・ハイ

カーと共に茶臼岳にザラ場の登山路をほぼまっす ぐ頂上に向かう。

13 時 45 分大きな岩で構成されている茶臼岳山頂に着く。景色は、360 度の大パノラマであった。

14 時山頂からお鉢を回り、遠く茶褐色の剣ヶ峰を望みながら、峠の茶跡分岐に 14 時 30 分着く。その後噴煙を上げている所と硫黄が堆積している2 か所を通過し 14 時 45 分姥ヶ平分岐を経て、15 時姥ヶ平に着き休息する。ここから見る茶臼岳は、日光白根山と同じ山容であった。15 時 10 分姥ヶ平出発、高橋隊と同じ道をたどり、約 30 分遅れの16 時 35 分駐車場に着き高橋隊と合流した。

# ◆第 11 回安全登山委員会 「ハイキングレスキュー講習」

宮川美知子

6月4日(土)飯能市市民会館にて、第11回のハイキングレスキュー講習会が開催された。会場には、日本山岳会員1名、埼玉支部11名、一般3名の15名が集まり、埼玉県山岳連盟遭難対策委員長の瀬藤武講師から講習を受けた。講習内容は、無積雪期ハイキングでのセルフレスキューの仕方を、午前は机上講習、午後は天覧山近くの登山道での屋外講習となった。

机上講習では年々増える遭難件数から、仲間が加齢により体のバランスが落ちて山の中で怪我をした時に、ツェルトを利用したり、3個のザックをつないだりして担架を作り、負傷者の搬送をする方法や、遭難時に雨や風で体を冷やさないために、ツェルトを用いテント代わりにしてビバークする方法などを学んだ。

午後からの屋外講習では、最近登山者の道迷いが多くなっていることから読図講習を実施し、参加者は5000分の1と10000分の1の地図を受け取り、道の分岐ごとに地図を見て自分の位置や周りの様子を確認することが大事と説明を受けた。視界の利かない山道は、地図とコンパスが必携である。もし山で道に迷ったら日本では下に行かずに上を目指せと指導している。山岳信仰の日本の山では祠や登山道を見つけることができるからで

ある。次に、山の中の平らな場所を見つけ、2 班に分かれて2人用と3人用のツェルトでビバーク用のテント張りを実習する。立ち木やストックを利用するとしっかりするのが分かる。



最後にツェルトで担架を作りみんなで搬送体験を した。参加者からは、セルフレスキューの重要性・ 創意工夫した準備や技術を学べて参考になった・ 次回は読図講習・ロープレスキューを学びたいな どの意見が寄せられた。

# ◆6 月四季の山春の山 残雪の?守門岳(平成28年6月5日~6日) 高橋 努

私は事情があり、1~4月まで登山から遠ざかってしまった。5月に埼玉支部月例山行で鹿沼岩山と那須岳で足慣らしをし、今回の守門岳に大いに期待をしていた。昨年の晩秋に埼玉支部秋の山で浅草岳に登ったが、その際、足慣らしに前日、六日町の坂戸山という小山に登った。地元に愛されている城址のある山でなかなか趣があったが、その山麓にさいたま市営山の家があることを発見し、その時に来年の残雪期にここへ泊って守門岳に登ろうとひそかに決めてしまった。今回は前日に出古志エリアをボランティアガイドに案内していただき堪能し、更にこのさいたま市営山の家でゆったり寛ぎ、万全の態勢で守門岳登頂に臨んだ。

9:30 天気も上々、14 名が大白川登山口から急登に挑む。大汗をかいたが登り切った所が小烏帽子。ここでランチだ。もう暫くするとニッコウキスケの海になる場所だ。ここからもう守門山頂は

手の届く近さである。それにしても雪が少ない、 というより雪がない。小さな雪田を二つ横切った だけ。これでは「残雪の」冠はつけられない。そ の分、花は豊富だ。イワカガミ、キスミレ、ツバ メオモト、上部にはカタクリ、シラネアオイ、タ ムシバ。乱れた季節に百花繚乱だ。

山頂からの眺めも良い。越後の山々が一望である。浅草岳から鬼が面の稜線が長く、昨秋の新雪の縦走が懐かしい。帰りの二口コースは長かった。 疲れと暑さでうんざりする頃、17:00 二口登山口に下山した。



守門岳山頂にて和やかな笑顔

この時期の山が好きだ。雨に降られて往生することもあるが、案外晴天に恵まれることが多い。緑はこの上もなく美しく、山が活力に満ち溢れ、命が滴っている。期待通りだった。気の置けない山仲間との温泉とビールは、わが肉体にも活を入れてくれたようだ。とても感謝の気持ちに打たれた山行だった。



### ◆スキー同好会設立される

日本山岳会埼玉支部スキー同好会発足とお誘い

登る方はそろそろかな?でも下る方はまだまだ!! "若い時したよ" "今もしているよ""

# 「全員集合」

年1~2回あの白銀の世界へ一緒に行きましょう。



平成28年2月尾瀬岩鞍スキー場(左:古川(リーダー)中:東 右:高場 他:小島、松本) 入会の手続きは簡単、「入るよ」「いくよ」etc と上の5名に声をかけて下さい。会費0円

### ◆平成28年7月~10月の事業予定

月	日・曜日	予 定		担当
7	3日(日)	月例山行 皇海山 (沼田ルート) (HP にご案内済み)		山崎
	16日(土)~	自然保護全国集会		高嶋
'	17日(日)	(高知市)		多田
	29 日 (金) ~	四季の山・夏の山(戸隠山・高妻山・飯綱山)	***	高橋
	31日(日)	(HPにご案内済み)	x	宮川
	11 日 (木・祝日)	国民の祝日「山の日」記念事業(秩父武甲山、講演 &コンサート)(HPにご案内済み)	<b>*</b>	松本
8	13日(土)~	国民の祝日「山の日」記念事業夏休み親子キャンプ	4	松本
	14日(日)	(秩父市三峰岳人の家) (HP にご案内済み)	¥	松本
	4日(日)	月例山行 横隅山 (別名:神山)	☆	松本
9	22 日	沢登り講習会 (場所未定)	***	高橋
	(木・祝日)	(近日中にご案内予定)	нин	平川
	1日(土)	10月例山行・諏訪山 (群馬県)	**	高橋
		(近日中にご案内予定)		
	2日(日)~	創立7周年記念海外登山台湾雪山・玉山を登る	***	古川
	8日(土)	(催行決定)	ннн	高橋
10	22日(土)~	自然観察会「玉原高原の自然を訪ねる」		高嶋
	23日(日)	(玉原高原)		多田
	29日(土)~	三支部合同懇親登山	*	古川
	30日(日)	(奥多摩大岳)	ਮੋ	וינם
	調整中	第2回森づくり&自然観察会		朝日

※各行事の詳細は、HPを閲覧するか直接担当者にご連絡ください。

平成 28 年 6 月 21 日現在

### ◆埼玉支部会員/会友在籍者数及び異動

【平成28年6月30日現在】

会員	137 名	会友	12名	計 149名		49 名
【異動】						
入 会						
会員			会友			
15909	遠藤俊博	3 月	K0020	小池鉄	男	3 月
16002	山口順次	4 月	K0021	城下訓	子	3 月
			K0022	徳永昌	美	6 月
		退	<b>会</b>			
会員			会友			
9744	柴山勝士	3 月	K0017	浅見幹	雄	3 月
10618	関口寿一	3 月				
12244	高崎辰箕	3 月	•			
12970	岩崎守男	3 月				_
13665	土田常次	3 月				
14888	野田英樹	3 月				
15584	根津隆二	3月				

#### ◆事務局からのお知らせ

住所、電話、メールアドレス等の変更がありましたら事務局にご連絡をお忘れなく! <連絡先>

埼玉支部事務長 古川史典 f8008pk@rock.odn.ne.jp



公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第18号 平成28年(2016)6月30日発行

発行者:公益社団法人日本山岳会埼玉支部長 松本敏夫

事務局: 350-0312 埼玉県比企郡鳩山町鳩ケ丘 1-25-10 古川方

電 話:090-3219-0860

Email:f8008pk@rock.odn.ne.jp

埼玉支部ホームページ: http://www.jac.or.jp/saitamasibu/index.html